

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム寿生の家
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	島根県出雲市上塩冶町
記入者名 (管理者)	立花裕美
記入日	平成 20 年 8 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		今後、“地域の中で”という部分をより考えながら、理念の実現に向けて努力していきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		今後も理念の実現のために継続していく。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		家族、地域へ理念の浸透、グループホームの理解を深めてもらうために今後も取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		今後も幅広く近隣の方にも子供や孫を連れて気軽に立ち寄ってもらえるよう声掛けを継続していきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		個々の希望や状態に合わせ、混乱を招かない程度の自然な交流を持っていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>収穫祭の時、職員の特技を活かし利用者と一緒に奈良漬・クッキー・苺玉・作品など手作りのものを販売し、地域のかたの好評を得ている。また、豚汁でおもてなしをしている。</p>		<p>地域の方や高齢者を対象に介護保険や認知症についての情報提供を行い、暮らしに役立てていただけるよう取り組みたい。今年の収穫祭の際には行う予定にしている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義を理解し、指摘を受けた項目は全職員で話し合い、改善に努めてきた。</p>		<p>トイレの床材の張替えをしていただいた。ホールの床材やエアコンの調整など申請している。今後も利用者様の生活のために改善すべきことは働きかけていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での情報や話し合いの結果を活かせるように、そこでの意見を職員会議で共有したり、職員の意見を聴いて活かせるようにしている。会議の場で施設の要望をご家族にお知らせして、それに答えていただいたりして、有効に活用できていると感じている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要時以外は特にそういう機会は作っていない。</p>		<p>必要があれば行っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を行い、あんしん支援センターの所長より講義をしていただいた。その情報を職員会議の場で伝達講習を行った。今後、必要な方には活用できるように支援していきたい。</p>		<p>今後も情報収集しながら行っていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会に参加し、その情報を全職員に伝達した。マニュアルも作成している。身体拘束・虐待対策委員会も職員会議の場で行い、そういう行為につながる“芽”もなくすように、職員皆で確認している。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ事前に見学していただいたり、十分に説明を行って同意を得て、契約をしている。やむなく退所となる場合もきちんと話し合い、理解・納得を得てから行っている。		今後もこれまで同様きちんと行っていきたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にまず理念をきちんと話し、要望等は気軽に伝えていただき、苦情となる前に対応できるようにしている。月ごとの行事や面会のときにもお互いの情報交換を行うようにしている。		どの家族からも率直な意見が聴けるよう今後も継続していきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月寿生の家だよりに日々の様子の写真を掲載し、コメントも個別に記載してご家族に送っている。面会時にも暮らしぶりなど報告している。金銭管理規定に沿って毎月お小遣いの出納簿を確認していただいている。職員の異動・採用についても家だよりを中心にお知らせしている。職員の写真と名前を廊下に貼りだしている。		今後も継続していきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から気軽に意見をいただけるよう伝えており、直接聴いたり、意見ポストをサービスカウンターに置き、目につきやすいようにしている。家族会や運営推進会議で家族からの意見はすぐに検討して対応している。		今後も継続していきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別の面接で意見を聴き、取り入れ、反映できるようにしている。年度初めに職員からの意見を法人への要望として提出している。		今後も利用者様のためになる提案などはどんどん取り入れられるようにしていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状況や行事の際など必要時は職員数を増やしたり、勤務時間をずらすなどの対応を行う。常にスムーズな対応が出来る様にしている。		今後も継続していきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当制を導入し、顔なじみの関係が出来やすいようにしている。法人内他部署との異動はないよう配慮している。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務年数に応じての法人内研修が計画されており、積極的に参加している。また、外部研修にも年1回は必ず参加するようにしている。外部研修は必ず伝達講習を行い、全体のスキルアップにつなげている。パート職員にも少しずつ研修に参加してもらっている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会や管理者同士個人的に交流を持っている連絡会もあるので、色々な情報交換を行い、良い事は取り入れるようにしている。今年は他のグループホームと職員交換研修を行いサービスの質の向上に取り組んできた。</p>	<p>更にネットワークを広げていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年2回の面接で悩みを話したり、親睦会も行っている。勤務中の休憩時間もきちんと取るようにしている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人の目標・寿生の家の目標のために個人の目標を立て、その達成のため向上心を持って勤務出来るよう努力している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用となる前に必ず会って、グループホームで生活する事に関しての意見を聴いている。悩みや不安も受け止めるように心がけている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前に出来るだけ本人・家族と情報交換の場を持ち、悩みや訴えを聴き、把握するようにしている。担当のケアマネジャーからも意見を聴いて、様々な面で理解できるように心がけている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で家族・担当ケアマネージャーや相談員等と情報交換しながら本人・家族の意向を十分に取り入れた対応を考慮している。		今後も継続していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、施設を見学してもらい“見覚えのある顔”が迎えられるようにしている。出来る限りご本人の馴染みのものを部屋に持ち込んでもらえるよう話し、馴染みやすい環境をつくれるよう相談している。		もう少し多くの馴染みの家具などを持参していただけるよう家族への声掛けを継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事、洗濯、副菜作り、掃除など一緒に行い、支えあっている。また、昔の言葉や煮物の作り方など教わっている。		常に寄り添い、相手の立場に立って、いっそう気持ちを共有していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族の参加を呼びかけ、また家族との外食、外出、外泊等行っていただきご家族と共に過ごす時間を提供している。面会時にはお茶を共に飲み日頃の様子や世間話が弾んだりする。		もっといろいろな活動と一緒に参加していただき、共に過ごせる時間を増やしていけるよう今後も継続していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人との関係が保てるように自由に外出・外泊していただいたり、面会に来られた時も、家族でゆっくり過ごしていただけるようお茶等準備したり、そういう場をセッティングしたりしている。		今のスペースでもゆっくり過ごしていただけるように今後も考慮していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅、お寺、墓参り、お店、他施設、病院(入院中の方)などそれまでの馴染みの人や場所がある方で、ご本人が希望されれば家族や職員の付き添いで行けるよう努めている。		今後も継続していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良いかたは隣の席にしたり一緒に作業をしてもらったりする。散歩やゲーム、ドライブなど共に関わりあう機会を作っている。		今後も意識していい関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても入所時のアルバムを作成してプレゼントしたり、特養・病院などに面会に行ったりして関わりを持っている。		今後も継続していきたい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に希望を聴きながら対応している。居室でいつも煎茶を飲まれる習慣のある方には、毎朝職員がお湯を沸かしている。困難なケースはご本人・ご家族を交えてカンファレンスを行い、本人中心のケアプランになるようにしている。		今後も継続していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・入所時に出来るだけ多くの情報が得られるようご家族や担当ケアマネージャー等と情報交換している。その情報が生活に活かせるように心がけている。(クリーニング業 洗濯物たたみ、清掃作業 床掃除など)		今後も継続していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状況をリーダーが総合的に把握し、申し送りメモを利用して確実な申し送りを行っている。管理者も申し送りに参加して、状態の把握に努めている。		今後も継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に希望や要望を聴き、ケアプランに取り入れている。困難事例に関してはご本人・ご家族その他必要な関係者と話し合いを持ってケアプランの見直しなどもその都度行っている。		今後も継続していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度は見直しを行っているが、変化があったとき、または必要時はその都度見直しを行っている。プランについては本人・家族・医師・PT・STなど必要と思われる関係者の意見も取り入れながら作成している。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャートを使用している。問題ばかりでなく良かった事も記録に残すようにしている。ご家族の要望なども記録しており、勤務時に目を通して情報を共有している。介護計画の見直しにも活かしている。よりわかりやすい記録になるよう、現在、マニュアルを作成している。		今後も継続していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族と常に情報交換しながら状況の変化や要望を把握し、日々の対応や外出・外泊など柔軟に対応している。空室を利用してショートステイも受け入れている。		今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域からのボランティア受け入れも増えている。避難訓練のときには地元の消防団の方にも参加していただいた。公民館活動や地域の行事にも参加する機会を作っている。		公民館活動には費用も掛かり参加しづらい面もあるが、運営推進会議などで地域からの情報を得やすくなったので、今後もうまく活用していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	移動美容院に2ヶ月に1度来ていただいている。又按摩のボランティアを受けた。その他は特にサービスは利用していないが必要があれば地域のケアマネジャーとは連絡を取り合っている。		ご本人の要望等あれば必要なサービスを利用していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業と成年後見制度について勉強会を開催した。制度利用に関して連絡を取り合ったこともある。適宜、あんしん支援センターとは連絡を取っている。		運営推進会議も利用しながら、今後も継続していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談してかかりつけ医を決定している。定期受診、急変時の対応等きちんと情報交換しながら行っている。		今後も継続していきたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同法人の協力病院やかかりつけの精神科できちんと治療を受けている。必要時は相談に行き、対応についてのアドバイスをいただいたりしている。		今後も継続していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であるので、常に状況も把握し、健康管理や医療面での管理を行っている。必要時にご家族への情報提供もきちんと行っている。		今後も継続していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は必ず、相談員やご家族と連絡を密に取り、早期退院や退院後の生活についてご本人やご家族が不安にならないようにしている。		今後も継続していきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体状況が変化した時は、ご家族への情報提供をきちんと行い、終末期をどのように、どこで迎えるか等話し合う。医師からのインフォームドコンセントもきちんと行ってもらい、ご家族の要望も聴きながら方針を決定する。その方針を職員全員で共有している。		今後も継続していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまでの看取りの経験を活かして、終末期のチームでの支援に取り組んでいる。重度化してもご本人や家族が不安になったりしないよう支援し、予想できる変化についての検討・準備も情報収集しながら行っている。		今後も継続していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人への説明やご家族との話し合いを十分に行い、常に納得の上で移ることができるようにしている。また、必要な情報はきちんと申し送り、不信感を抱いたり混乱がないように努めている。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを損ねないよう個人的な情報交換はサービスステーションや利用者様のおられない場所で行っている。排泄の声掛けや排便の確認などは小さい声で周囲の方に気を遣っている。難聴の方の場合などはつい声が大きくなってしまふこともあるので注意している。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何かしたいことはないか、行きたいところはないかなど尋ねたり、飲みたいもの、食べたいものなどが選択できるような状況をつくったりしてる。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入所前の生活習慣を把握して、活動などは無理強いせず、ご本人のペースに合わせるようにしている。希望も聞きながら活動に参加してもらっている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>起床時にその日に着る服を選んでいただいたり、納得のいくまで鏡の前で身だしなみを整えてもらったりしている。美容院も希望を聴いている。外部の理容店を希望される方もあり、場合によっては職員がカットすることもある。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事に関しては、法人内業者委託となっており、買い物から調理までグループホームで行うことはできない。昼食のみごはんを炊き、副菜の材料を届けてもらい利用者様と職員と一緒に調理している。時には昼食を止めて献立から買い物、調理を一緒に行うようにしている。片付けは一緒に行っている。</p>		<p>利用者様の食べたい物を聞きながら献立から買い物、調理を行う機会を増やしていきたい。今まで1回/月の割合で焼きそば、お好み焼き、鍋などして食べた。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お茶の時は飲みたい物を聞いて用意している。おやつも数種類のおやつを菓子鉢に用意して好きなものを選んでいただいている。たこ焼き、ホットケーキ、ゼリーなど手作りしたり、煮しめ、酢の物は常時茶口にする。お酒やたばこも希望されればできるだけ対応しているが、現在は該当者がいない。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンや排泄前の行動を把握し、そういう行動が見られれば速やかにトイレ誘導を行っている。できるだけトイレで排泄していただけるよう支援している。		今後も継続していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後2時からとしているが、希望されたり、その方がいい方は夜間(夕食後)に入浴していただいている。毎日でも対応している。		今後も継続していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々状況に応じて気持ちよく休めるように室温や匂いなどに気を配り、ソファーやベッドの環境を整えるようにしている。活動や作業の無理強いはない。		今後も継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や特技を活かし、奈良漬づくりや台所仕事、畑仕事、掃除、洗濯などの場面で活躍できるよう支援している。男性には“日曜大工”的な仕事もしていただいている。		今後ももっと様々な活動がしていただけるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や理解力に応じてお金を所持したり、買い物ができるように支援している。		買い物が出来る機会を今後もつくっていききたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅への外出、墓参り、散髪、買い物、外食、ドライブ、花見など出来るだけ希望を聴きながら出かける機会をつくっている。		笑顔がたくさんみられるよう今後も継続していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には特別な外出の機会を設け、ご家族もお誘いしたりすることもある。年に一度は、遠足を行い利用者の状態に合わせた外出を行っている。新婚旅行地や思い出の場所・生地へお連れした。		ご家族にもいい思い出がつくっていただけるようこういう機会を継続してつくっていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もある。自分でかけられない方が希望されればかけてから取り次いでいる。年賀状のやり取りや誕生カード、また写真や手紙で近況を知らせたりしている。		面会に度々来れない家族の方に喜ばれているので、今後も継続していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間いつでも訪問していただけるようにしている。来られた際はゆっくり過ごしていただけるよう椅子、お茶などに気をくばっている。		今後も継続していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待対策についてのマニュアルも作成している。外部研修にも適宜参加して情報を得ている。伝達講習も行っている。身体拘束・虐待対策委員会を職員会議で行って、職員全員の認識の統一を図り、また、そういう“芽”もなくすようにしている。		今後も継続していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけることは絶対がない。玄関も夜間以外はかけていない。一人で外に出掛けられると付き添っている。鍵をかけることは身体拘束につながることを皆が理解している。		今後も継続していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の生活パターンを把握して、適宜、利用者様の所在を確認し、行動や精神状態の変化などについても把握している。		今後も継続していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	鎌、包丁、針などは必要時に出し、使用後に確認して保管している。個々に応じて対応している。包丁は毎日本数を確認している。		今後も継続していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対応マニュアルを作成している。適宜勉強会を行っている。ヒヤリハットノート・ヒヤリハット報告書・事故報告書に基づきその都度カンファレンスを行うなどして個々の状態に応じた対応をして事故防止に努めている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1度は急変時の対応についての勉強会を行い、心肺蘇生や吸引機の使用方法などについても訓練を行っている。		パート職員にも同様にこういう機会を持ち、今後も継続していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は避難訓練を行っている。夜間想定も行っている。法人内の他施設から応援を依頼するようになっている。塩冶地区の消防団の方に参加していただいたことはあるが、一般の方々に対しては特に声掛けはしていない。		グループホームの存在やどういう施設であるかなど普段からお知らせしていき、いざという時に応援が得られるといいと思う。非常持ち出しや避難の仕方などの情報の得方など今後検討していかなければならないと考えている。火災以外の災害に対してもう少し情報を得たいと思っている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測できるリスクについては事前に回避できる方法を家族を交えて話し合っただけで対応を決めている。(ベッド 畳、部屋換え、食事形態、色つきマットで意識づけ、タンスの固定等)		今後も継続していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違った状態があるときには、バイタルチェックを行い、状況の判断に努め、管理者(看護師)に報告し、受診を含め適切な対応ができるようにしている。状況はきちんと記録に残し、皆で共有している。		今後も継続していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書綴りを常備し、変更等あった時は確認している。服薬についてもチェック表を作成して誤薬防止に努めている。服薬後の症状の変化にも注意しながら観察している。		今後も継続していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便のチェックを行い、便秘気味の方は日頃から水分量に注意している。出来るだけ体を動かしたり、薄めたセンナ茶も利用して便秘にならないよう注意している。		今後も継続していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けや介助を行い、清潔に保てるように心がけている。入れ歯の洗浄にも注意している。入れ歯の破損などないかの確認も行っている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が少ない時は間食できるよう支援している。水分が摂取しにくい方は、ジュースやゼリーなど好みのものを摂取していただいている。		今後も継続していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルも作成しており、感染予防の勉強会も行っている。手洗いは十分に行っている。毎日、ピューラックスで拭き掃除を行っている。		今後も継続していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はきちんと冷蔵し、調理したものはすぐに冷蔵庫に入れるなど気を遣っている。食器やまな板は洗浄・乾燥、ふきんも消毒に努めている。室温も25℃以上にならないよう注意している。		今後も継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたり、プランターやラティスを置いたりして家庭的な雰囲気を出せるようにしている。		今後も継続していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、掲示物を季節に合わせてたり、畑で収穫した旬の野菜の煮物などをお茶口に出したりして季節感を出している。風が気持ちいいときは庭でお茶を飲んだりしている。		今後も継続していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースが狭く、十分とは言えないが、ソファを置いたり、畳のスペースを利用して居場所の工夫をしている。テーブルの配置にも気を遣っている。屋外にもベンチを置いて利用している。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたものを持参していただくようお話ししている。寝具も使い慣れた毛布やタオルケット、枕など馴染みのものを使用している。冬はコタツにカーペット、夏はゴザにテーブルと四季の模様替えをして住み良く生活して頂いている。		入所時に持参してもらえるよう今後も継続していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時は常に換気に努めている。こまめなポータブルトイレ更新や気になる臭いがあれば注意して掃除するなど行っている。コーヒー豆での脱臭も行っている。		今後も継続していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置したり、トイレには大きく表示してわかりやすくしている。車いすでも生活できるように段差はなく、スロープもある。ホールは狭さを感じているが、ソファやテーブルの配置を工夫している。		今後も継続していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札やのれんをかけて部屋の意識づけができるように配慮している。トイレの表示もわかりやすく表示している。		今後も継続していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ラティスで区切って庭を造り、ベンチや長椅子を置いて日光浴や休憩ができるようにしている。家庭菜園で野菜を作り、一緒に収穫していただき、果物の木も植えている。今回ラティスの塗り替えをした。		今後も活発に野菜や花づくりを行っていきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員の勉強会や法人内研修、外部研修に積極的に参加して自己研鑽に努め職員会の場で研修報告を行っている。 接遇（言葉遣い、笑顔、態度等）を徹底するよう接遇委員を設けており、他職員も接遇研修をきちんと行っている。 利用者や職員の特技を活かし、畑（さつまいも）や奈良漬を作り、芋煮会・バザーで地域の方と交流を図っている。 又古誌回収を利用したり、バス停掃除を行い地域の方に喜ばれている。 花壇やプランターで四季の花を飾り、利用者様や来所者の方々の癒しの場になっている。 利用者の希望・要望を取り入れ外出（墓参り、自宅へ外出、生地、新婚旅行地、理髪店、外食、お花見等）を積極的に行い、理念の実現に努めている。 遠方の親しい縁者の方に写真や手紙で近況を知らせ大変喜ばれている。 職員の退職・異動も無く認知症対応の経験年数も得、馴染みの関係で家族から安心の声を頂いている。 フィッシュ哲学を取り入れている。 働きやすい職場を目指し、職員の良い所を認め専用ボードに貼り出しお互いを高め合い、自他共に活々と楽しく働いている。 家族の希望があれば、医師・管理者・計画作成担当者を交えインフォ - ムドコンセントを行い、ターミナルケアを行っている。